2025
NO.62

山本左近NEWS

令和7年8月6日　発行所：山本左近政策研究会
〒440-0806愛知県豊橋市八町通1丁目14-1　Tel. 0532-21-7008　Fax. 0532-21-7003

No.62

戦後八十年の節目迎える
八〇年談話について解説

8月に入りました。

今年は、**戦後80年の節目**を迎えます。2015年8月14日、**安倍総理**が閣議決定を経て発表した「内閣総理大臣談話（通称：**70年談話**）」は、戦後50年の「対山談話」、60年の「小泉談話」に続く政府の公式見解であり、歴史認識の継承を宣視したものです。

今、石破総理が閣議決定を経て80年談話を出すかどうか、大きな注目を集めています。そこで、今回は、この談話について解説します。

《70年談話の意義》

10年前に当時の安倍総理が発表した70年談話は、「先の大戦への道のり、戦後の歩み、20世紀という時代を心静かに振り返り、未来への知恵を学ばなければならない」と述べ、300万人余の命が奪われた**戦争の惨禍を繰り返さないとの決意を示しています。**

また、植民地支配や武力による解決からの永遠の決別を宣言し、自由と民主主義を基礎とする平和国家としての道を、誇りを持って歩んできたことを強調しています。

「70年談話」が特に重要なのは、戦争を直接知らない世代が国民の8割を超える中で、**「謝罪を続ける宿命を負わせてはならない」**とし、歴史と真正面から向き合い、謙虚に受け継ぎ、次の世代に引き渡す責任を未来志向で語っている点です。

また、戦後復興において、国際社会、とりわけ元敵国からも差し伸べられた善意に感謝を述べています。**「繁栄こそ平和の礎」**として、自由で、公正で、開かれた国際経済システムを発展させ、途上国支援を強化し、世界の更なる繁栄を牽引する世界への貢献を誓っています。

この80年の節目にあたり、私たちは改めて、豊橋や豊川における痛ましい歴史にも目を向けなければなりません。

1945年8月7日、終戦直前に米軍によって行われた**豊川海軍工廠への大規模爆撃**。学徒動員された多くの若者や一般市民を含む2,500人以上が命を落としました。

この惨劇は、**戦争の非情さと平和の尊さを私たちに今も強く語りかけています。**改めて犠牲となられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げ、深い哀悼の誠を捧げます。

《80年談話について》

石破総理は、様々な声を受けて早々に「80年談話」の閣議決定を見送りましたが、4日の衆院予算委員会で、戦後80年にあわせた見解の発出は必要との認識を示しました。

また、発表Eは、8月15Eではなく、日本が降伏文書に署名した「9月2日」とする可能性があるとの報道も出ています。

この動きに対し、国際政治学者・細谷雄一慶應大学教授は、「歴史認識の複雑化」や「ロシアのプロパガンダへの加担」の懸念を指摘しています。

ソ連は、日本軍の戦闘停止後も違法な攻撃を継続し、北方領土を占領しました。ロシアや中国は、戦後の正当性を「9月3日」に置き換えることで、こうした行為を正当化しようとしています。

もし日本政府が「9月2日」に談話を出すことでそれに迎合すれば、アジア諸国や国内の歴史観にも新たな亀裂を生む恐れがあります。

私は、今すべきことは、歴代談話の精神を継承すること、反省と未来志向をバランスよく表現した「70年談話」の意義と一貫性を尊重し、平和国家としての歩みを確かな言葉で国内外に発信することだと考えています。

この談話は、日本国内だけでなく、アジア全体、さらには国際社会との関係にも大きな影響を与えます。

真摯に過去と向き合いながら、継承すべき理念、すなわち、**自由、民主主義、人権といった基本的価値**を揺るぎないものとすること。その**価値を共有する国々**と手を携えて、**「積極的平和主義」**の旗を高く掲げ、世界の平和と繁栄にこれまで以上に貢献する**平和国家としての誓い**を未来へとつなげていくこと。そして、適切な形で発信を行うこと。これらが極めて重要であり、期待されるものだと考えています。

前衆議院議員
山本左近

山本左近の活動はこちら

《やまもと・さこん》
愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。43歳。豊橋高校卒業、岡山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼動を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙に自民党比例代表で2期目に立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。

前衆議院議員 山本左近

資料解説

安倍総理 戦後70年談話全文

終戦七十年を迎えるにあたり、先の大戦への道のり、戦後の歩み、二十世紀という時代を、私たちは、心静かに振り返り、その歴史の教訓の中から、未来への知恵を学ばなければならないと考えます。

百年以上前の世界には、西洋諸国を中心とした国々の広大な植民地が、広がっていました。圧倒的な技術優位を背景に、植民地支配の波は、十九世紀、アジアにも押し寄せました。その危機感が、日本にとって、近代化の原動力となったことは、間違いありません。アジアで最初に立憲政治を打ち立て、独立を守り抜きました。日露戦争は、植民地支配のもとにあった、多くのアジアやアフリカの人々を勇気づけました。

世界を巻き込んだ第一次世界大戦を経て、民族自決の動きが広がり、それまでの植民地化にブレーキがかかりました。この戦争は、一千万人もの戦死者を出す、悲惨な戦争でありました。人々は「平和」を強く願い、国際連盟を創設し、不戦条約を生み出しました。戦争自体を違法化する、新たな国際社会の潮流が生まれました。

当初は、日本も足並みを揃えました。しかし、世界恐慌が発生し、欧米諸国が、植民地経済を巻き込んだ、経済のブロック化を進めると、日本経済は大きな打撃を受けました。その中で日本は、孤立感を深め、外交的、経済的な行き詰まりを、力の行使によって解決しようと試みました。国内の政治システムは、その歯止めたりえなかった。こうして、日本は、世界の大勢を見失っていきました。

満州事変、そして国際連盟からの脱退。日本は、次第に、国際社会が壮絶な犠牲の上に築こうとした「新しい国際秩序」への「挑戦者」となっていった。進むべき針路を誤り、戦争への道を進んで行きました。

そして七十年前。日本は、敗戦しました。

戦後七十年にあたり、国内外に斃れたすべての人々の命の前に、深く頭を垂れ、痛惜の念を表すとともに、永劫の、哀悼の誠を捧げます。

先の大戦では、三百万余の同胞の命が失われました。祖国の行く末を案じ、家族の幸せを願いながら、戦陣に散った方々。終戦後、酷寒の、あるいは灼熱の、遠い異郷の地にあって、飢えや病に苦しみ、亡くなられた方々。広島や長崎での原爆投下、東京をはじめ各都市での爆撃、沖縄における地上戦などによって、たくさんの市井の人々が、無残にも犠牲となりました。

戦火を交えた国々でも、将来ある若者たちの命が、数知れず失われました。中国、東南アジア、太平洋の島々など、戦場となった地域では、戦闘のみならず、食糧難などにより、多くの無辜の民が苦しみ、犠牲となりました。戦場の陰には、深く名誉と尊厳を傷つけられた女性たちがいたことも、忘れてはなりません。

何の罪もない人々に、計り知れない損害と苦痛を、我が国が与えた事実。歴史とは実に取り返しのつかない、苛烈なものです。一人ひとりに、それぞれの人生があり、夢があり、愛する家族があった。この当然の事実をかみしめる時、今なお、言葉を失い、ただただ、断腸の念を禁じ得ません。

これほどまでの尊い犠牲の上に、現在の平和がある。これが、戦後日本の原点であります。

二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。

事変、侵略、戦争。いかなる武力の威嚇や行使も、国際紛争を解決する手段としては、もう二度と用いてはならない。植民地支配から永遠に訣別し、すべての民族の自決の権利が尊重される世界にしなければならない。

先の大戦への深い悔悟の念と共に、我が国は、そう誓いました。自由で民主的な国を創り上げ、法の支配を重んじ、ひたすら不戦の誓いを堅持してまいりました。七十年間に及ぶ平和国家としての歩みに、私たちは、静かな誇りを抱きながら、この不動の方針を、これからも貫いてまいります。

我が国は、先の大戦における行いについて、繰り返し、痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明してきました。その思いを実際の行動で示すため、インドネシア、フィリピンはじめ東南アジアの国々、台湾、韓国、中国など、隣人であるアジアの人々が歩んできた苦難の歴史を胸に刻み、戦後一貫して、その平和と繁栄のために力を尽くしてきました。

こうした歴代内閣の立場は、今後も、揺るぎないものであります。

ただ、私たちがいかなる努力を尽くそうとも、家族を失った方々の悲しみ、戦禍によって塗炭の苦しみを味わった人々の辛い記憶は、これからも、決して癒えることはないでしょう。

ですから、私たちは、心に留めなければなりません。

戦後、六百万人を超える引揚者が、アジア太平洋の各地から無事帰還でき、日本再建の原動力となった事実を。中国に置き去りにされた三千人近い日本人の子どもたちが、無事成長し、再び祖国の土を踏むことができた事実を。米国や英国、オランダ、豪州などの元捕虜の皆さんが、長年にわたり、日本を訪れ、互いの戦死者のために慰霊を続けてくれている事実を。

戦争の苦痛を嘗め尽くした中国人の皆さんや、日本軍によって耐え難い苦痛を受けた元捕虜の皆さんが、それほど寛容であるためには、どれほどの心の葛藤があり、いかほどの努力が必要であったか。

そのことに、私たちは、思いを致さなければなりません。

寛容の心によって、日本は、戦後、国際社会に復帰することができました。戦後七十年のこの機にあたり、我が国は、和解のために力を尽くしてくださった、すべての国々、すべての方々に、心からの感謝の気持ちを表したいと思います。

日本では、戦後生まれの世代が、今や、人口の八割を超えています。あの戦争には何ら関わりのない、私たちの子や孫、そしてその先の世代の子どもたちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません。しかし、それでもなお、私たち日本人は、世代を超えて、過去の歴史に真正面から向き合わなければなりません。謙虚な気持ちで、過去を受け継ぎ、未来へと引き渡す責任があります。

私たちの親、そのまた親の世代が、戦後の焼け野原、貧しさのどん底の中で、命をつなぐことができた。そして、現在の私たちの世代、さらに次の世代へと、未来をつないでいくことができる。それは、先人たちのたゆまぬ努力と共に、敵として熾烈に戦った、米国、豪州、欧州諸国をはじめ、本当にたくさんの国々から、恩讐を越えて、善意と支援の手が差しのべられたおかげであります。

そのことを、私たちは、未来へと語り継いでいかなければならない。歴史の教訓を深く胸に刻み、より良い未来を切り拓いていく、アジア、そして世界の平和と繁栄に力を尽くす。その大きな責任があります。

私たちは、自らの行き詰まりを力によって打開しようとした過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、いかなる紛争も、法の支配を尊重し、力の行使ではなく、平和的・外交的に解決すべきである。この原則を、これからも堅く守り、世界の国々にも働きかけてまいります。唯一の戦争被爆国として、核兵器の不拡散と究極の廃絶を目指し、国際社会でその責任を果たしてまいります。

私たちは、二十世紀において、戦時下、多くの女性たちの尊厳や名誉が深く傷つけられた過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、そうした女性たちの心に、常に寄り添う国でありたい。二十一世紀こそ、女性の人権が傷つけられることのない世紀とするため、世界をリードしてまいります。

私たちは、経済のブロック化が紛争の芽を育てた過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、いかなる国の恣意にも左右されない、自由で、公正で、開かれた国際経済システムを発展させ、途上国支援を強化し、世界の更なる繁栄を牽引してまいります。繁栄こそ、平和の礎です。暴力の温床ともなる貧困に立ち向かい、世界のあらゆる人々に、医療と教育、自立の機会を提供するため、一層、力を尽くしてまいります。

私たちは、国際秩序への挑戦者となってしまった過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、自由、民主主義、人権といった基本的価値を揺るぎないものとして堅持し、その価値を共有する国々と手を携えて、「積極的平和主義」の旗を高く掲げ、世界の平和と繁栄にこれまで以上に貢献してまいります。

終戦八十年、九十年、さらには百年に向けて、そのような日本を、国民の皆様と共に創り上げていく。その決意であります。

平成二十七年八月十四日
内閣総理大臣　安倍 晋三

山本左近 豊橋事務所
〒440-0806 愛知県豊橋市八町通1丁目14-1　TEL. 0532-21-7008　FAX. 0532-21-7003　info@sakonyamamoto.com

お名前、ご住所等のご確認のお願い
お名前やご住所に変更がありましたら、山本左近事務所までご一報ください。山本左近を応援してくださる皆さまに今後も情報をお届けできるよう努めて参りますので、引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

討議資料